

※以下資料出自台灣日日新報 (1923-1934)

日期	版次	標題
1923/11/16	6	簡訓導之特志
1924/3/1	6	義塾招生
1925/11/19	4	農民組合創立總會
1926/10/2	5	捨鉢的に益益 反抗氣勢を揚げぬか鳳山郡の臺灣農民組合
1926/10/3	n04	鳳山郡 臺灣農民組合 此後態度深可注目
1926/11/18	2	羅東小作爭議 二期作不良で
1926/11/19	2	鳳山農民組合幹部の 公務執行妨害事件 開廷前物物しかつたが 事實の審問丈で閉廷
1926/11/20	4	鳳山農組幹部 公務妨害公判 初日審問事實
1927/2/14	4	農民組合代表上京陳情
1927/4/2	4	基隆文化講演被檢束五名 撞倒死一名
1927/4/13	n04	農組支部發會
1927/5/7	n04	農組講演被中止
1927/5/9	4	芭蕉生産者大會 決議提議七個條
1927/5/26	n04	基隆文化講演 被中止兩次
1927/6/13	1	農民組合支部
1927/6/29	n04	農總組幹部會 磋商中部移轉
1927/7/22	4	籌組屏東農民組合 因蘇某素多劣跡 到處被拒絕加入
1927/8/4	2	新竹州に根を張つた 農民組合 農民の煽動につとむ
1927/8/17	n04	東京磯溪會主催講演 來十八日在彰化座 附各方面意見
1927/8/20	n04	出版法違反案 判決無罪
1927/8/25	n02	農組の講演會で 農民を煽動し 解散を命ぜられたので 一部州廳へ押寄す
1927/11/11	4	多數農民擁到大屯郡役所前 強要釋放檢束者
1927/11/11	n02	多數をたのんで 檢束者の釋放 を強要する本島人
1927/11/13	2	大屯農組の臺中署糾彈演説 開會と同時に解散
1927/11/13	4	農組政談講演被命中止解散
1927/12/2	5	簡吉氏留置
1927/12/17	2	思想問題 本島に於るその動き (四) 昭和二年の回顧(7)
1927/12/20	4	大肚農組報告大會講演 多被中止注意 聽衆不滿二百
1927/12/30	2	臺中農民組合の芭蕉生産者大會計畫
1927/12/31	n04	芭蕉生産者 大會流會
1928/4/13	6	彰化農組支部 開假處分 反對大會
1928/4/13	n04	退官者拂下土地 執行引上假處分 農民向法院陳情
1928/6/2	n02	農民組合の爭議部長 婦女誘拐で告訴 臺中署で取調中
1928/6/6	n04	農組爭議部長簡吉 以誘少女被告訴 被拘後證據不充分放出
1928/7/16	n04	臺中農民 組合内訂
1928/7/18	7	臺灣農民組合は 危險ではない 總督の裁量を仰ぎたいと
1928/7/26	n02	現金泥棒
1928/8/24	n04	新竹州關係當局 傾力于業佃事業 農民組合復起活動
1928/9/6	n04	文協講演激烈 被解散亦被拘
1928/12/23	n04	大鬧農民組本部 痛罵公猪拐誘吾女 負我織手撫養成人 憤然欲與簡吉拚命 該組伏魔殿暴露
1929/5/27	8	檢察官變裝以五十圓紙幣買車票 幾乎不得乘車

日期	版次	標題
1929/6/19	7	中擲事件公判 次回は二十日
1929/7/5	n04	臺中黨事一束／農民組合臺中本部
1929/7/15	8	臺中／公判延期
1929/7/31	5	傍聽禁止宣告に 毒づく被告側 臺灣農民組合幹部の 出版法違反事件 公判第一日の場 景
1929/8/8	n04	出版規則違反事件 農民組合幹部判決
1929/8/21	5	臺灣農民組合の 出版法違反 判決言渡し
1929/8/22	n04	臺灣農組員 出版違反 判決宣告
1929/12/7	7	臺灣農組控訴公判 六日高等法院覆審部で開廷 被告は知らぬの一点張り
1929/12/21	4	農民組員 不服上告 因撒布不穩文書
1929/12/21	n02	不穩文書を撒いた 組合員に判決 禁錮二年同十箇月 二十日控訴公判で
1931/3/1	n02	臺灣農民組合 首領釋放さる 臺北を去る條件で
1933/7/25	88b	簡吉
1934/5/2	8	臺共事件公判 審理簡吉 否認爲共黨員
1934/5/2	n02	黨員でないと 頑強に否認 臺共の簡吉
1934/6/14	n04	共産黨再建目的 組臺灣赤色救援會 一部實行中受大檢舉／組救援會
1934/7/7	7	臺共事件の服罪者 六日までに十八名
1934/7/8	n04	臺共事件 服罪十八名 控訴八名
1934/7/17	8	大湖竹南支部 幹部指導 漸趨于左傾
1934/7/17	n04	小作爭議の虚に乗じ 主義者が巧に操る 兩地とも寒村僻地の別天地 農組組織以來漸時 左傾／大湖支部／指導精神／目的遂行／昭和六年／同支部は